

朱雀代文招 下

15-463



1200501229319

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10m
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10cm

始



朱菴信丈摺

梅之部

大稿

一文字卷肉



宿せのくわきのうなせぬ馬中河かえひをもてとする稿。わ
稿やうは梅かはれりと。吟じてみゆからう。日月日と
歌き。酒肴ねのくわきのうなせぬ馬中河かえひをもてとする稿。わ
人更年興あひ。第一利多かしておもむり。此やけう
きゆく丈多かして粹とする事。梅檀林かつりて素
音衣ふかそひがく。かくの處の虛を文まもむ。

朝の風一匁たり。夜々一匁なり。宿泊する處は
池あり。ひるより宿泊す。まことにあき
あき。もし候候より。おづす處を宿してまし
候。今まに尋ねてそなたの處にあらぬをす。又お宿
を尋ねてまし。お宿はまづまづと申す。ほんとあらわす

生野 いの 村内 むらうち あり

ゆきひ物ゆきものへやうだ。ゆきひをあはせつめなぞうに
やうやうへくらふまをまくらうて考てまよもむかふ
くつまがてを考かまひとてつみをくやうんぬゆうた
あひうよみ。松風林マツフジノミをもひぐれ入いる
あす。難ハシハシが自ソがまづあはせまくらうと他カのまでもす
あまづましきぬまうとうとくもあはせまくらう

人ヒトのまくら室マムシキに入いる。まくらをゆうだと。磨マツのこゑ
やうやうへくらふまをまくらうて考かてまよもむかふ
くつまがてを考かまひとてつみをくやうんぬゆうた
あひうよみ。松風林マツフジノミをもひぐれ入いる
あす。難ハシハシが自ソがまづあはせまくらうと他カのまでもす
あまづましきぬまうとうとくもあはせまくらう

和歌

用

七里しちりつづく松マツの木のき。まよひをまよひをまよひ
ふ。お外ほかのまをまよひ。まよひ。まよひ。まよひ。まよひ。まよひ。まよひ
のまをまよひ。まよひ。まよひ。まよひ。まよひ。まよひ。まよひ。まよひ。まよひ。

あえだまづ家をあらへし。さるにわらうと處で家廢
とぞうふす。出来のやうにわらうとくの物なり。中
ひと多く行ひ、おもひますがをほあくし。あくまゆ様子
なまくはれし。まちあくわらうとくとくです。

珊瑚 さんご
同

いぬゑ事のよだれあはり西袖。夙儀このく宵門
ゆうきり。驚くはし。また陽調がまどす。くまはす
うめかみ。多行うとくす。れども。まく。桂半くまく。東
ざくさ。は葉かやまつあが。玉をそんせんせんかわらあり。感情
むきりて。桂半くまく。桂半くまく。

思ふ おもふ
同

もの身をあひ。風体も病うつ。健ひやくゆくとだあう。
あゆも物すがくとよがく。けがくとよがく。床入す。
驚くはすく様がむれ。けやく病うつ。がむれく

黒園 くろぞの
同

もの身を常く。ねまく。はゑだり。経免をとまく。と
との涙だり。涙だり。あくはれ。まくはれ。風やくとよとよ
れ。あくはれ。たまくはれ。度量。麻衣入。出来。うづり。うづり。うづり。
右の間のう。ふ飛。肩がむれ。さうして。聲。わぬ。てある。

りひもひらぢみをかんぞう

左門 同

而体すすらやれどみあくび。喉がまくらを
ぬきまくらをすくらし。右中脚筋のあく
いあくは下をとくらゆる

久保 同

弱りき井上あらひのと筋もひとまふ不水邊
同じあらひのと筋も筋も筋物がつづれ。筆走る
湯ちとくらゆつてとくらゆづら方

強女 川

弱てわづかに弱む。而極つゝ。漁夫つゝて川
船車あり。山萬人。ひね物。第一床入口上に管也。
うそりまくらもくらもくらもくら。うそりまくら
うそりまくら。室人花曾。もとつべ。ますもがりひ
自らあそび。おやかうら。おもかく。おひそひす絶り。
う不忍かみうら。うら

常盤 川

此人始小常とつひ。而ふらみがりとよがり

く。あさうせうへた。都うちハ皆うつむ。厄拂^がうろ
ぢうりへ進^{まし}ぐとし。出来上とゆすれのつうり。汝やあう
あう人あお根^{だいこん}とくります。毛^け者^者丸で根づきとせらう
すみえ遠てやり

勝山 同 中みえ遠てやり

小楊 同

あはせうとゆへるを聞^き。圓^{えん}かうひとも風^{かぜ}うてちを
いはまへり。内^{うち}なみよもなる。紫^{むらさき}の衣^き。あ^あ。
うら。髪^{かみ}まづたうじ。絆^{くわん}り。うらで長丈^{ながじ}引^ひす
十二度^{じゅうにど}の腰^{こし}。腰^{こし}。人^{ひと}の腰^{こし}と身^みの腰^{こし}。内^{うち}
の腰^{こし}。腰^{こし}。腰^{こし}。腰^{こし}。腰^{こし}。腰^{こし}。腰^{こし}。腰^{こし}。
うら。腰^{こし}。腰^{こし}。腰^{こし}。腰^{こし}。腰^{こし}。腰^{こし}。腰^{こし}。腰^{こし}。

紫衣 同

まことに。かくして、あまの神事は、皆無事すが古
生の間も、嘗ておらず。はやく病氣より、て疫氣より
免解となり。よほどの御心づりつらう。山であつて

とさ
お続 同

かくして、あまの神事は、皆無事すが古
生の間も、嘗ておらず。はやく病氣より、て疫氣より
免解となり。よほどの御心づりつらう。山であつて
ちと平地近く、あひの山ややらね。然つて、お風す
るをとれど、あやめや、あやめや、あやめや、あや
めや、あやめや。姉妹の、うちの御子、お風す
るをとれど、あやめや、あやめや、あやめや、あや
めや、あやめや。お風す

砲てちてやあらこと
尾上 円

先月廿五日、あまの奉の新禮。まことに、傷氣、ア、誓上
彼の薦あきの化氣、利氣、かへりて、第一あきと、乃
も無氣でござり。野鳥、女郎の物を、何とぞ
も見て。お祭り、おまつり、用事あるもの、おまつり
おまつり。おまつり。おまつり。おまつり。おまつり。
おまつり。おまつり。おまつり。おまつり。おまつり。
おまつり。玉勝、おまつり。おまつり。おまつり。
おまつり。おまつり。おまつり。おまつり。

アラタニシタリ。モハシキ。アラタニシタリ。モハシキ。

信
頼
法

大盛堂書畫

字物

同

萬物

四



さだねぬるよがま今してやれと聞かましとてわらふ
んばく茶の本入の事よりまくと今して腰絆
ゆくもあらわむと。そもひ箇で長刀とちして松葉集
め。うとろてひねふとゆりあいしがくらてあれとまへ
下竹籠もはまをゆうすとえ。おと陽階細櫻の花
紫とらぎと。こも詠の佐木野りとせむす。あらきど宵
飯乃茶
とと夫婦をあそぶと。ほんとのひだり
ごりりとくらはれ。板のたか。おまけにまくろ
もくわの書でもう
乃だまく

野瀬

同

やくはうり
竹籠の内仕事すかまく參りとす。お手向

ひん機みひつか山桜をまもうあうきつべー山茶樹櫻子と
りとてかくヌ形。内少少不事りてむらうともく。櫻
引ひつをとす。山茶。山茶す。竹ふくととうとくを

圭列

月

やくはうり。お桐白木ひと竹す。櫻がみづえと。お茶樹
茶の仕事の銀あづりて。うちつまくと。觀のまわら
はまくと。山茶樹の櫻子十乃茶の相わら。もだそ櫻
うすとて櫻平。うすがわらもく。櫻。背もくとじ
てす。但風うらが叶。茶中を。板の茶本入を

もくと。御勢とくとくたまハ座若。まくと。お茶樹をうち

溢あふたがざと。かくに同すり。其その切きくへうがす。核かくもうせ
うなせの邊ひ背せをすり。又また唐度からどを下おちへかへし。行道ぎやう
をあらね氏うじを原はら。欲ほくうりの長櫻ながざくらでも色いろうみて。とよひ
ごくねうとうかくもみぞとて發はと昇のと息いきとつづきをす。

名坂あさ

あづん爲ためりをめまめまと車牛くるま避さけみすすら夜よの寒さむ。
ちと辯せんしの草くさと。智ち知し乃のほと。とまもとがむかと。行ゆき
すむ乃のもひとお行ゆきのまへり。窓まど五ご枚まい。

猿河さる河か

同

而と袖そでくへ着きゆきと。がくふんへ。がくゆくと。見み候まわいと
やかくうり。かくゆくと。家いえ候まわすと。かげと
ほく令めい聲こゑと。柳梅やなぎ等などふくらむ行ゆく。猿さる河か小こ林はやて
ちとひらむかがり

小篠磨こさ

同

而と袖そでくへちゆく。あくらむせぬかり。と。大人おとな方かた云いふ病びア乃
半はんの日ひも。もろくも。れと。や。は。ま。入い。と。手て中なかに
もれど。おゆ。がぬく。もじかく。追お付つけ。稚わらわと。き。給さへ。と
若わらわの。津つ川が。お宿と。や。う。給さへ。と。む。と。ひ。と。ま。と。お。と。う。と
と。の。津つ川が。と。ゆ。う。給さへ。と。ま。と。お。と。う。と。だ。べ

統役

同

而体トシ。わらや兵士やあり。せんもつさだへりつとも。そきを役へて。がくをきふくとひで。うりをとあくとこうる。物うづくとあると。たほへらおが福とおふくの御免

若祥

同

而体役同利。ひう。契す。お役事へて。もあく。又二三年に。りゆく。と。まじせ。は。じ。と。ま。じ。ゆ。う。恵。ち。た。だ。と。帰。喰。え。約。ひ。と。と。れ。業。を。否。ま。り。年。終。と。歸。す。う。だ。と。が。ぎ。ま。さ。う。の。い。え。名。か。不。言。ね。む。え。と。信。仰。し。ま。

河内

同

中老や。ま。歩。今。と。先。は。壽。川。と。号。す。而。私。物。好。酒。弟。
ひ。ら。や。と。又。今。か。ん。と。ひ。す。よ。て。酒。下。乃。向。く。の。の。もの
と。ゆ。り。所。捨。方。識。す。る。新。歌。

毒鄰

同

新。搜。と。而。体。が。第。お。が。手。あ。ぐ。の。と。今。い。ま。う。あ。ず

猶役

同

新。搜。と。而。体。が。第。お。が。手。あ。ぐ。の。と。今。い。ま。う。あ。ず

あくまくかくすとみうがじとまよ。つまむ
ちりかへうが摸平ら

高砂

同

関寺

三人の女郎サカヒにて、洋うりとひも八月す
に上野を駆け、出見せず、まゆもれと略す。ば
御手筋人まぢか秋わづかづくらんと板ひりと

長橋

内紀

同

新艘あり。船橋うらじゆうらじゆうらじゆう
船もろい。船忠みまらひまの半竭が。
さかのあがわくいものどもうひが。

お演

同

手に新艘あり。船術ノ船のすまくと魚べ。船爭

初よりあまくとよびりぬふす。汗もほれ、つるめ
新禮えんらいとよびりて三重みやこもろくひんぢり。ゆかひやうち
もくひよとよくとよく。やまととよくとよくとよく
ああ。ひりてよくとよく。今ハあらむ。

わたりとゆり、よも
よもとくとく

瀬川せがわ
同

新瀬せがわのつまらねり。而体からやふ平ひら死しか逃越とうえつのあざ
奉さなのらぐくもとだ。ほがの肥肉ひにく來熟じききうあり。は茶
けりぎれやて麿まろ。宮みやも瀬川せがわのうごくを寄候よきら

和雄わいお
月

としを新野しんやし。瀬川せがわよりひきとて腰こし堵ふり。山さんそらに
さんど鳴なきらす。うへてえねり。す。而御からよこし。久人
こじゆくふくらす。山さんのほるす。とたとく。アミダアミダがや
瀬川せがわの庵あ。

空霧くうぎ

上町じょうまち桔梗谷ききょうだにの窓まど

空くう高たか仰あお首くび。天あま水みず流ながす。あ葉あはのほく。うづく。うども。
内うち幻おぼも來くわて梅うめく變かわぢ。必ひ世よと人ひととく。空くう

金す。而鬼にりてはれを功す。アリテ無けり。す
脛に物たり。シタク。床食行す。遙深原ノ麻
敷也。レニ前立背とアリ。シテ御が原。右脇
常ニぬの物也。アリ。シテ左脇のつじジムモアシ

山林

同

見。モリカエリ。シキノトナヒタカス。アリテ
シテハ生氣を興ス。アリテアリヒテ。シテアリ
カホドモアリ。シテ。シテアリ。シテ。シテアリ
シテアリ。シテ。シテアリ。シテ。シテアリ。

夜アリ。トミ

義名川

ミカゲ
すく重山

同

サカナ由所將行とひよま。アリ。シテトナヒ。ア
リ。シテ。新吉。アリ。シテ。アリ。シテ。アリ。シテ。
アリ。シテ。アリ。シテ。アリ。シテ。アリ。シテ。アリ。シテ。
アリ。シテ。アリ。シテ。アリ。シテ。アリ。シテ。アリ。シテ。

はるかにうらやましきとぞあつて

八雲
月

汝も傷うちうつむきなみ。さうじと和室へ就
里根寺のそりあこどもすすまよ。まや西風ひびく。今
のうきゆふ。あ世人もろきよ。ゆき
ど。深きひきよ。ゆけ櫻あり。ゆえやへたるをひらめ
ゆき。ゆきとひらり。きれひつよまひ。ほ葉をとく。櫻折る
後葉半降る。もとすらうか。ゆき。かわ
風が舞とうふ。かぐわせゆき。葉ふかむ。鶴の五穀行油
单のひづき。あらわく。とく。毛はく。かく

弟舟
同

城よりをゆり。旅籠。幹ともりうべ。あうちの移住人
のうりゆうきう。御くわらわらのうりうとくとく。うりう
じゆ。ゆて。第高ゆりた。返す物うつて。ゆく。りとく
姫好ひりうよ。お入浴せ。自便。やね。御湯を。宴人。かよ。を
すまきて。ゆく。とく。ゆく。風呂のうりゆく。ゆく。ゆく。
ちゆふ人。ゆく。の。お風呂を。ゆく。床入。あゆく。ゆく。ゆく
お風呂。ゆく。おぞけ。まみ。ゆく。ゆく。ゆく。ゆく。ゆく
まみ。と。おづく。お風呂。ゆく。お風呂。ゆく。ゆく。ゆく。ゆく
ゆく。ゆく。ゆく。

小倉

月

物語の人物とおなじに。室町那のことを、おもむく
りおもやかめうらちの小倉のまこと。御神姫（みかみ）
は、おもむくおもむくおもむくおもむくおもむくおもむく
おもむくおもむくおもむくおもむくおもむくおもむくおもむく

廻舟

月

麻衣子（まいかこ）

而れおわらさう。石長（いしのなが）と対後（さうご）とすひき。利根（りね）
と利根（りね）とおおきの川（よし）とおおきの川（よし）とおおきの川（よし）
とおおきの川（よし）とおおきの川（よし）とおおきの川（よし）とおおきの川（よし）
とおおきの川（よし）とおおきの川（よし）とおおきの川（よし）とおおきの川（よし）
とおおきの川（よし）とおおきの川（よし）とおおきの川（よし）とおおきの川（よし）
とおおきの川（よし）とおおきの川（よし）とおおきの川（よし）とおおきの川（よし）

常盤

月

新艘（あらふね）とおおきの川（よし）とおおきの川（よし）とおおきの川（よし）

清原

月

新橋（あらはし）とおおきの川（よし）とおおきの川（よし）とおおきの川（よし）
とおおきの川（よし）とおおきの川（よし）とおおきの川（よし）とおおきの川（よし）
とおおきの川（よし）とおおきの川（よし）とおおきの川（よし）とおおきの川（よし）
とおおきの川（よし）とおおきの川（よし）とおおきの川（よし）とおおきの川（よし）
とおおきの川（よし）とおおきの川（よし）とおおきの川（よし）とおおきの川（よし）
とおおきの川（よし）とおおきの川（よし）とおおきの川（よし）とおおきの川（よし）

纏倉

月

新瘦しんじゆうの観くわん

まくわづはす御ごめりひそめに上用じょうようをもとめでちとぞ
そそりて行ゆき八半はん挺立ていりおとこまし。すな
もさびて生なま筋すじあざな。まきあひつとたします。
名すむらふ廉まこと金かなあひらうらべ。けり角くのく

初風はつぜき

上森かみもり吉よし萬まん。

輕まぶ中なかとねり。而ひ体佳きさ盈あふる。薫かゆ。袋ふくろ。根ね。石いし
中なかと筋すじよりこゆ。心こころをす。うど底そこをかぢ。う
りあます。心こころをひかず。心こころをわらう。心こころをわらう。
うよ小腹こらへ方ほう満まつるもの。ゆくらう。を行ゆき田たの萬まんをとの方

古端こばた

同

姫ひめ奴やつ。生なまえのう。た骨ほねだ。乍さやが湯ゆくとある。
小男こらへ。晴はれ曉あ。そとゆく。身みに。極きわづく。四よ事こと。がわが
食く。り。そやがて力ちからてま。他ほかがそ服ふくを。ゆく。うち。二に服ふく充あふ潤じゆ
り。餘よ。根ねあ水溢みだらの。よ。り。ハク。立た。か。井い。池いけ。津つ。と。と。と。と。
。余よ。走は。か。た。う。波なみ。か。腰こし。こ。と。や。ま。せ。ん。そ。そ。そ。

緑扇りょくせん

同

新瘦しんじゆう。而ひ福ふく。因いんつ。と。膚はだ。ゆく。り。や。く。と。と。と。と。
毛け天てん撫なで絨ゆうの。蒲かば團だん。う。で。擣つき起おきの。屏びょう。と。拂は。が。と。し。以。革かわ。

玄関つま板を引く。らきとて木箱へ。とつあくと用意
のあたる。おもろが。おもむか。おもむか

青柳 同

新渡あり。わね。さうか。ふん人情を角どらず。い
草なだらう。とくひま。おもひごと肩でこもれさ

高麗 たうた
上支町柏谷吉左内

そよそよかうしよそぞぞ。能のまふね。とくよこみ
ちが。せん中ちゆ。ある。金城。が下落す。歌どもよめお下
落す。がやとりふく。えり。秋名云月鉄也満則鉄

とせり。宣ガ。だまう。おまく。とく。人情。自體。とく
う。とく。下落。あはれ。とく。とく。横平。が。業。とく。無
や。休。教。繫。う。が。や。とく。金。お。わ。蘭。生。とく。禁。とく
れ。す。お。け。み。ら。とく。の。お。ま。う。とく。の。お。ま。う。とく。の。
とく。ま。う。とく。の。お。ま。う。とく。の。お。ま。う。とく。の。お。ま。う。とく。
とく。ま。う。とく。の。お。ま。う。とく。の。お。ま。う。とく。の。お。ま。う。とく。
とく。ま。う。とく。の。お。ま。う。とく。の。お。ま。う。とく。の。お。ま。う。とく。
とく。ま。う。とく。の。お。ま。う。とく。の。お。ま。う。とく。の。お。ま。う。とく。

三湯 みうち

同

而神れりと形り。而ても健ふる肉たり。とてひ名と安危と
敵て又すとひをかうせら。御内物也。下内物也。
脅(あば)。左脅(あば)。右脅(あば)。御前(みまへ)の
脇(あば)。脇(あば)。御前(みまへ)の脇(あば)。御前(みまへ)の
脇(あば)。脇(あば)。脇(あば)。脇(あば)。脇(あば)。脇(あば)。脇(あば)
脇(あば)。脇(あば)。脇(あば)。脇(あば)。脇(あば)。脇(あば)。脇(あば)
脇(あば)。脇(あば)。脇(あば)。脇(あば)。脇(あば)。脇(あば)。脇(あば)

砂

同

「言とまく」ある

砂をして輪廻(えんあ)をよしゆく。而神(めがみ)を
うす。而神(めがみ)を。而神(めがみ)を。而神(めがみ)を
うす。而神(めがみ)を。而神(めがみ)を。而神(めがみ)を
うす。而神(めがみ)を。而神(めがみ)を。而神(めがみ)を

綱(きぬ)

月

而神(めがみ)を。而神(めがみ)を。而神(めがみ)を。而神(めがみ)を
新(にい)禮(れい)。而神(めがみ)を。而神(めがみ)を。而神(めがみ)を。而神(めがみ)を
新(にい)禮(れい)。而神(めがみ)を。而神(めがみ)を。而神(めがみ)を。而神(めがみ)を
新(にい)禮(れい)。而神(めがみ)を。而神(めがみ)を。而神(めがみ)を。而神(めがみ)を
新(にい)禮(れい)。而神(めがみ)を。而神(めがみ)を。而神(めがみ)を。而神(めがみ)を

弓(ゆみ)

月

新(にい)禮(れい)。而神(めがみ)を。而神(めがみ)を。而神(めがみ)を。而神(めがみ)を
新(にい)禮(れい)。而神(めがみ)を。而神(めがみ)を。而神(めがみ)を。而神(めがみ)を
新(にい)禮(れい)。而神(めがみ)を。而神(めがみ)を。而神(めがみ)を。而神(めがみ)を
新(にい)禮(れい)。而神(めがみ)を。而神(めがみ)を。而神(めがみ)を。而神(めがみ)を

弓(ゆみ)

月

新(にい)禮(れい)。而神(めがみ)を。而神(めがみ)を。而神(めがみ)を。而神(めがみ)を
新(にい)禮(れい)。而神(めがみ)を。而神(めがみ)を。而神(めがみ)を。而神(めがみ)を
新(にい)禮(れい)。而神(めがみ)を。而神(めがみ)を。而神(めがみ)を。而神(めがみ)を
新(にい)禮(れい)。而神(めがみ)を。而神(めがみ)を。而神(めがみ)を。而神(めがみ)を

と病びぬるのち坐ててうそとしを織りかけたまひ

大和

下之町横枝屋花喜内

ち和也を儀而納つてはくに害廢あゆうゆく
生れもつて以ざる。りりあらむ横平すどもすみし
自神りこひくまきと迷つてはむや
笑ふよがさひと餘

ち砂

同

びくきだらまでト井筒とおのきり引うつしてどと水
きくふるけくまくわせり。らてつまくに害廢くに茶く
床入るのうなむかう。引てアラマス人情

若松

同

あや節也をあ神氣をかひゆく。ひあ来とおひぢ
風神をみくじやうじ。ものびてに湛とむぢり。
ひやうるねす。ゆやむ。おもくくし。じく肩くく
ひくまくく声か。あたふあまと立びをえぞまくとや

三笠

同

とひひ禮う。ひひ密絆しきく。ひひ密
ひひ禮う。ひひ密絆しきく。ひひ密
ひひ禮う。ひひ密絆しきく。ひひ密

大富

同

是も新御高八月十日日未過揚。今人あわたり、警の
ハサカイナリ。而後、ひどく而あくまづひく。
あらうと早洋れせり。まわる肥られ甘熟としらうだ。
口葉よりのりはつらかく、紅みゆめはく。

越ほ

下之町柏原又千郎内

而神。膚。皮。筋。骨。肉。筋。肉。筋。肉。
毛。皮。筋。肉。筋。肉。筋。肉。筋。肉。筋。肉。
筋。肉。筋。肉。筋。肉。筋。肉。筋。肉。筋。肉。
筋。肉。筋。肉。筋。肉。筋。肉。筋。肉。筋。肉。

相ふす。りといが節とて、圍あらう。さすがに年のもく。梅をの
金田。とりまきて今う。船を出でて、中へ歸ぬ。てまへづ。
床入まち。近あら。風景。とけへつて。露衣衣被。星夜花雨。織繁
き。鼻息風。ひ。常まこと下思。物あらず。よ。天。上風。歌り。根
又。あらう。劉伯倫。も。む。走。ほ。歌。抑。だ。て。して。ま。と。と。と。

藤浪

同

而林。櫻。一。然。圓。佛。く。づ。ま。り。な。ま。よ。お。ら。ち。う。廻。向。場。の。桜。
え。を。ま。か。こ。き。れ。ど。外。や。く。わ。り。き。く。な。ざ。り。も。櫻。く。そ。儘。玉。
所。く。以。茶。つ。と。と。く。ら。く。し。は。と。の。や。あ。物。死。死。と。の。や。も。し。
難。死。ま。く。い。こ。相。と。り。林。と。桜。行。の。桜。と。り。か。あ。わ。行。の

初高

同

もはやかわらとせよ初高とすばらう。新神く
あらわす。めりあがひだるがゆきふたどひまく
越前

同

新神くわ稀う。新登す。山を上絶行す。もの
をも。よこす。もととくへんのいだくもとくも

大隅

中之野一文字空巣門

あやか。あとさがま。おがらみとゆ。損のあくわゆ

倭毛

同

加くまもとをあひ。人形のまつ。民をとくとくも。
うきくま。あらはに。な入はをあくくわゆのめり。
脚くま。作りあくく。

八千代

中嘗もとね肩

西林物ぬ。序中。中。中。中。中。中。中。中。
アラム。アラム。アラム。アラム。アラム。アラム。
アラム。アラム。アラム。アラム。アラム。アラム。

五
五
五

同

おまかせの次第へまほくと横平かとくぐふをす。
ひ葉をもじくしてね毛はし。やうじゆうりく
さとりてあらえ枝をと風毛の風氣を入の中です
いがわばの洋をもくほり。辛給たんき

筑前

同

若手の事處へ智恵をもあつるんうげ
志賀

同

是もあめの渡り。や林中や四葉の不見すらぢ
も。よひて流ゆがく。あく功のつま
わう。うく内くらむてぬまひも。ひもで

静

同

此度の渡り。間りゆゑも。アラモコゆゑも。ア
ホもあめがたる。木入れ。山あもト。との事
もあめがたづ。而魔外をもくしてぬめもくと
も

已上梅宿をゆく

こよや

つと今朝の御事あらわゆるの評判京のみを離す
 いたちゆゑもあく徳集す御事よ甚候多く。ひて遠
 ちとむかへゆけ。すれどもわざもあらず。すれども
 もう人跡の新穂さらも。やうの便利ともうわづ
 人もよせよ。まよ御のたのみかづけ。すれどもえりば
 丸薙の外。もくはくの花をうそと。粹のうつ處
 やす。平の傷。身の傷。は在す云举
 世而參定而不加勸舉。世狀之而不加沮と又萬能
 ほりん。今つこそふせをとげ。すれども。すれど
 すくまで多く人ひふじ。傍より見事おたぐ所であ
 から。らくめり。さよぬけり。あらわに。従
 政

附録	大鼓 <small>おの</small>	小鼓 <small>ひの</small>	鼓拍 <small>ヒヤク</small>	金拍 <small>ヒヤク</small>	人づき <small>ヒノシテ</small>
上	太鼓 <small>おの</small>	小鼓 <small>ひの</small>	金拍 <small>ヒヤク</small>	鼓拍 <small>ヒヤク</small>	人づき <small>ヒノシテ</small>
中	同上	同上	同上	同上	同上
下	同上	同上	同上	同上	同上
下	男 <small>おとこ</small>	ちづよ	お撲 <small>ハラマハラ</small>	お撲 <small>ハラマハラ</small>	人づき <small>ヒノシテ</small>
右	外太鼓 <small>おとこ</small>	小鼓 <small>ひの</small>	金拍 <small>ヒヤク</small>	鼓拍 <small>ヒヤク</small>	人づき <small>ヒノシテ</small>

訳注の一部の文字の意味等の説明。左の「外太鼓」の「外」は、右の「外太鼓」の「外」を指す。右の「外太鼓」の「外」は、左の「外太鼓」の「外」を指す。左の「外太鼓」の「外」は、右の「外太鼓」の「外」を指す。右の「外太鼓」の「外」は、左の「外太鼓」の「外」を指す。

にい家庭からんのつるま。毎日一回のあらへの男や女づくちを三人
かき捨ふも。酒代もとだげずも外。枕わらひ書ひ下を巻てあらす
うち筆用へ。やうの男がびびしく二階やうぢ。床をト揚てひを廻
おひかみて。うからく壁屢々八方のめのわらひ。つまみたのまへが
うく。まろく裏やうらがよ。ねむれどにあせゆとだ二人酒でものられ
ず。まづ床とおとくねむ。さうまちくやらく。おまえまんで行ひ
やらやらく。床入船とくして。せんげ下にむかひ。うへて人萬ふあど
りしてみとだけどぬまうせす。下約おはなうごくうた奉舞
もまぢりて。とれ宿舎とつわふるもとひど店あえひせ
もせず。まくせえ食い和食いでもうやうやうで。せじ御うごく
万しケリ。まつたがそあつづみのへ。まつてひきをだづきと

ともゆめつね月ドだざとまくとどきゆあくじうろくと
して金盆のぐんまくとだえあくうり。あひと昇アスヒて。ほのる
敵とあくまうくわね。うきひあくせくはく。おおうがく
とのりとくね。うり被ととくもとす天井一人と伏せかくすと
も。月ドや高ねとくう。おへり。彼のそんぐゆをとだまわとく陰
りつくる。おもとと移の外うもとだまわとく

好文軒述之

貞吉家に章九月下旬抜行

15
403

印行五百部之内
第納本號

書製會

品寶非

昭和三年八月廿五日印刷
昭和三年八月廿八日發行

第五期
第二十二回

編輯兼發行者 東京市牛込區富久町八十四番地
影刻者 山田清作
印刷者 大塚祐次
發行所 東京市牛込區富久町八十四番地
米山堂

明治四十五年三月九日
明治四十五年三月九日

終

